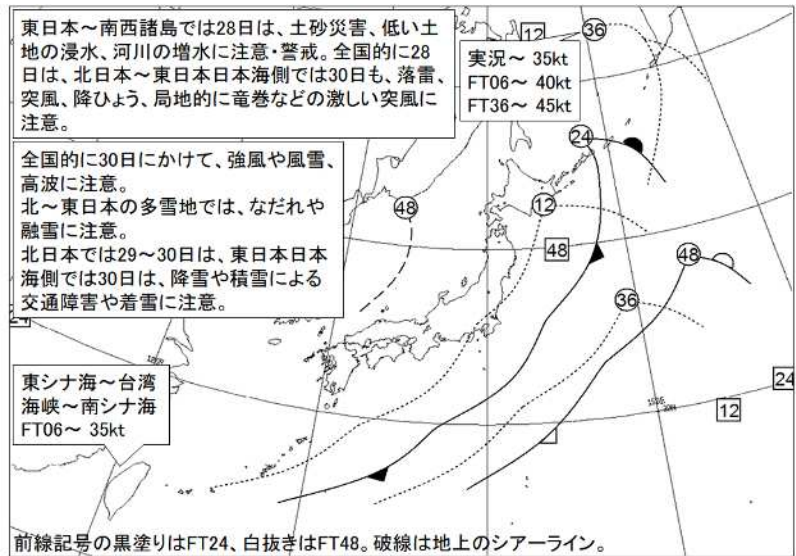


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5520m付近の強風軸に対応して、前線を伴った低気圧が津軽海峡付近を東北東進。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、南西諸島～西日本太平洋側で活発に発雷、非常に激しい雨を解析、メソサイクロンを検出。
- ② ①の低気圧や前線の近傍では気圧の傾きが大きくなり、全国的に強い風が吹き、波が高くなっている所があり、西日本太平洋側では非常に強い風の吹いている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 28日は、1項①の低気圧が千島近海へ進み、前線が日本付近を通過して日本の南に進む。
- ② 29日は、2項①の低気圧はオホーツク海を北上し、前線を伴う低気圧が日本の東を東北東進。また、500hPa 5220m付近で-36℃以下の寒気を伴うトラフに対応して夜までに日本海に低気圧が発生する。
- ③ 30日は、2項②の日本海の低気圧がオホーツク海に進み、低気圧からのびるシアーラインが、北～東日本を通過。また、500hPa 5760m付近の強風軸に対応して下層の傾圧帯が南西諸島にのびる。
- ④ 2項①の低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で全国的に28日は、2項③の低気圧やシアーラインに向かう湿った空気と上空寒気の影響で北日本～東日本日本海側では30日も、大気の状態が不安定となる所がある。また、東日本～南西諸島では28日は、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。低い土地の浸水、河川の増水、土砂災害に注意・警戒し、落雷、突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。
- ⑤ 2項①の低気圧や前線に向かって、28日は北～西日本に850hPaで平年差+10～+15℃の暖気が流入。降水の影響も加わり、雪解けが進む。北～西日本の多雪地では、なだれや融雪に注意。
- ⑥ 2項①の低気圧後面で、850hPaで-6℃以下の寒気が、29日は北日本に、30日は東～西日本に南下。2項②の低気圧後面や2項③の低気圧やシアーライン近傍では、降雪や積雪による交通障害、着雪に注意。
- ⑦ 2項①～③の低気圧や前線の近傍と、30日にかけて大陸から東シナ海に移動する高気圧の南縁では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 降雪量(06時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。
- ③ 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島・沖縄4、その他広い範囲で3m。
- ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東～西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。